

井戸端だより

第85号

発行日：2014年3月26日

発行：くらしの学習会



| | | |
|-----------------|-------|----|
| 1月例会報告 | | 1 |
| 会計報告 | | 2 |
| 2月例会報告 | | 3 |
| 3月例会報告 | | 4 |
| 東温市巡回型運動教室に参加して | | 5 |
| 高齢者の生き方 | | 6 |
| 助けてもらっています | | 9 |
| 短歌 | | 10 |
| 義父の手紙 | | 11 |
| 嬉しい再会 | | 12 |
| 京都明治期小学校の創設 | | 15 |
| 雑感 | | 16 |
| 愛媛新聞（市議会） | | 21 |
| 編集後記 | | 22 |
| お知らせ | | 23 |



1月例会報告

1月7日（水）11時からHさん宅に於いて、総会及び一品持ち寄りでの新年会を6人参加で行いました。会員名簿の確認・会計報告を確認し合った後、2014年度の活動について話し合いました。宇和島市にある「旧木屋旅館」の見学、道後温泉街で開催される「道後オンセナート2014」の見学などの案が出ましたが、この日、皆勤参加で情報通のS.Kさんが体調の関係で欠席されていたので2月例会でも話し合いをすることになりました。

重信川にある洪水対策の霞堤「開発霞」と霞堤の中にある「かすみの森公園」の自然復元計画を議論するワークショップ（重信川の自然をはぐくむ会主催）に参加しているK.Kさんの経過報告がありました。彼女曰く、自分が理想としたものとは程遠い形になりそうだと残念がっていました。2014年度に工事に着手、3か年程度で完了する予定だそうです。今後、折を見て工事経過の見学も意義のある活動になりそうです。※5回のワークショップを終え結果報告の新聞記事を添付※

お正月休み中「三か村泉」周辺を散歩したHさんは、改修工事によってすっかり変貌した泉の様子を残念そうに話をしてくれました。ここも皆で見に行ってもいいのではないかと思いました。

12時から持ち寄りによる新年会となりました。普段のコミュニケーションの賜物なのかスープからデザートまでバラエティーに富んだ料理がテーブルを飾りました（かぼちゃのスープ・エビの生春巻きと温野菜添え・ローストポーク人参サラダ添え・手作りピッツァ・海苔巻きずし2種・手作りアップルパイ・大粒イチゴ・松山銘菓タルトとカステラ）家族の健康の話やお子さんの結婚話などお喋りに花を咲かせながらおなかいっぱい頂き、2月の例会を決め15時すぎにお開きとなりました。

(A.M)



重信川の湿地再生へ

東温市など 上流に泉を新設

東温市上村の重信川 市役所であり、自然な
にある洪水対策の霞 川の流れをつくるため
(かすみ)堤「開発霞」 の改良策や植生などの
と、霞堤の中にある「か 整備内容が決まった。
すみの森公園」の自然 2014年度に工事に
復元計画を議論する第 着手し、3カ年程度で
5回ワークショップ 完了する予定。
(重信川の自然をはぐ 霞堤は洪水時に水を
くむ会主催)が14日、 氾濫させ、勢いを一時



開発霞の整備計画を話し合うワークショップ
メンバー

的に弱める。これまで
のワークショップで
の意見を踏まえ、事務
局の国土交通省松山
河川国道事務所が整
備案を説明。出席者
が意見交換し、了承し
た。

計画では、上流に泉
を新設し、かつてあっ
た湿地を再生。コンク
リート製の水路の一部
は、壊して石と土を使
って改良。段差が急な
部分は、階段式にして
魚などの移動に配慮し
た。植生は、密な湖畔
林▽明るい湖畔林▽雑
木林▽在置▽花木・紅
薬の4エリアを設定
し、植樹する。

各年度の着工前にワ
orkshopを開き、
再確認して内容を調整
する。維持管理や利活
用方法についても、工
事を進めながらメンバ
ーに意見を聞く方針。
(中田佐知子)

会計報告(2013.1~2013.12)

| | | |
|----|-----------|--------|
| 収入 | 前年度繰越金 | 93007 |
| | 活動会費8名分 | 16000 |
| | 購読会費9名 | 9000 |
| | カンパ2名 | 11000 |
| | 利子 | 11 |
| | | <hr/> |
| | | 129018 |
| 支出 | 用紙代通常 | 1344 |
| | 切手代 | 12710 |
| | 封筒 | 198 |
| | パネル展 | |
| | 台紙・のり | 886 |
| | 写真プリント代など | 4476 |
| | テープ | 105 |
| | 遣出 | |
| | ガソリン代 | 4540 |
| | 高速料金 | 2060 |
| | | <hr/> |
| | | 26319 |

差引 120 129018-26319=102699 次年度繰越金

2月例会報告

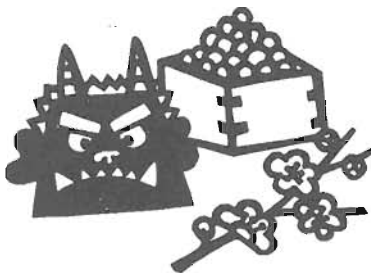
2月18日(火)11時からH宅に於いて、Hさんお得意のホットプレートで作るパエリア体験を行いながら今年度の活動計画について今一度6名参加で話し合いました。

まず、パエリア作りから。ホットプレートにオリーブオイルと洗ってザルに上げておいた米を入れ軽く炒め、パエリアの素(調味料・スパイスが入った液体)を注ぎ、その上にシーフード(鱈・海老・イカ・アサリ)野菜(パプリカ・グリーンアスパラ)を彩りよく並べ蓋をして180℃で10分、110℃で10~15分で出来上がり。出来上がるまで参加者が持ち寄った物やHさん手作りの料理が並べられ賑やかなテーブルになりました。

熱々に炊き上がったパエリアをプレート底から混ぜほぐし各自に取り分け頂きました。寒いこの時期、鍋料理もいいけれど目先の変ったおもてなし料理としてピッタリ。シーフードの旨味がきいたしゃれた味でとても美味しく頂きました。茹でたジャガイモをアンチョビと生クリームで和えた料理も大好きな味で早速我家の食卓に上りました。お客様の多いHさん宅のおもてなし料理を習うことができ良い体験になりました。

食事をしながら、今年度の活動計画について話し合いを行いました。1月の話し合いの中でも出た「かすみの森公園の自然復元計画」が4月以降進んでいく経過を見守りながら、私達にできる事を活動としてやっていきたいとの意見が出て原案をK.Kさんに3月の例会までに作成してもらうことになりました。事始めとして3月例会(3/19)は、まだ工事の始まっていない状態の「かすみの森公園」の見学・「三か村泉の改修工事」の見学・K.Kさん作成の活動計画についての話し合いなどを行うことになりました。

4月の計画として、宇和島の「旧木屋旅館」見学を予定に入れHさんの知り合いでもある管理者の方に連絡を取ってもらうことになりました。(A.■)



3月例会報告

10時に林宅を出発して、三ヶ村泉に行きました。全く様相が変わっていました。泉には大きな道が付いていて、下に楽に降りられ、泉の端を歩けるような状態になっていました。陽がもろに当たっていて、護岸工事をした面の方は、水がよどんでいて、自然の浄化作用は期待できないような状態でした。今や泉ではなく、川のちょっと広い所という感じに変わっていました。何だか悲しくなりました。

次に旧緑化センターの半分を県警察機動隊庁舎の寮(70人近い隊員が常駐する施設)にするというニュースが前に入っていたので、その工事現場を見に行きました。前は梅の林だったところ、椿の林だったところ、ほとんどすべて木が切られ、工事に入る前の土地削らしがなされていました。これも本当に悲しい光景でした。

次に霞の森公園へ。ウマノスズクサの状態を見に行きましたが、まだ出ていませんでした。前、困って移植した土手のところも、国体の運動場の工事で様相が変わっていました。こちらは立ち入り禁止で近くで見ることができませんでした。確実にジャコウアゲハの生息地が変わってきていると思いました。

2月例会で懸案となっていたジャコウアゲハの観察会ですが、K.Kさんから、今回は見送りたいという申し入れがありました。大きくななくても何かできればいいなと思いますが、いい案が見つかりません。(T.H)



護岸工事をした三ヶ村泉

旧緑化センター
(しだれ梅・椿は何処へ?)



東温市巡回型運動教室に参加して

昨年9月、東温市地域包括支援センターの主任介護支援専門員の訪問を受けた。

「東温市巡回型運動教室に参加しませんか。あなたは運動器の機能が60%低下している」という。前回実施した市の基本健康検査時に行われる特定高齢者の介護予防のための基本チェックリストに「階段を手すりや壁を伝わらずに昇っていますか」等々、5項目があり、その3項目が生活機能の低下と判断されたようだ。

その当時、膝関節痛で正坐は出来ず、椅子から立ちあがる時に下腹部が痛くてスムーズに足が出ず、腰痛の状態になっていた。70歳の声を聞いた途端にあちこちにガタが来はじめていた。それまでは胃腸や歯は丈夫で風邪もめったに引く事もなく、少々の事なら自然治癒力を信じて我慢していた。運動嫌い病院嫌いも相まって自分の体のメンテを怠ったつけが回ってきていた状態だった。

自宅までの送り迎えが魅力的で運動教室に参加をお願いした。

事前に、中央公民館で社会福祉協議会の職員、愛大の学生さんたちの協力で体力測定があり、10月21日から週2回計30回の運動を川内健康センターで、3名の社会福祉協議会の職員の指導で翌年の3月初めまで続いた。

運動の前に椅子に座り掛け声をかけながら9種類のストレッチ体操を、その後椅子・ボール・マットを使い9種類の筋力アップ運動。「動作はゆっくりと」「無理をしない」「力を入れている身体の部分を意識すること」などその都度適切なアドバイスを受けながら約1時間半身体を動かす。年齢は70歳前後10人のグループ、男女比は3対7。途中3回の水分補給・トイレ・お喋りタイムがある。この時間帯は笑い声が絶えることなく、先生は「免疫力がつきます」と見守ってくれる。

約3か月経った頃経過観察の体力測定もあった。

最終日には茶話会を、との声が起こり、早目にメニューをこなし皆でお菓子とお茶でおしゃべりする時間をとってもらった。「この教室に参加してよかった」「あちこちの痛みが少なくなり体が楽になった」という声ばかり。当の私も膝痛は解消され当初の目的は達成された。写真を撮り連絡先も交換した。桜の時期には重信川の堤防でお弁当を持ちよりお花見をする計画が進んでいる。楽しい仲間造りもできた。

後日、運動教室の受講者が自主的に立ち上げた教室があると聞き、早速その仲間に入れてもらおうと出かけて行った。早急に成果を期待することは無理。こつこつと続けて行くしかない。

(S. K)

高齢者の生き方

“幸楽という終の窓辺に、借景も我庭と思えば心豊かなる”

と今年の年賀状に書きました。

早いもので酒だる村からここに移り住んで、1年余が過ぎようとしています。

思いおこせば、『乗りこえて、乗り越えて、ここに泉あり』を書き終えた朝の出来事でした。主人が鬼籍に入ってから生れた幼き者達（孫の太一と琴子）が自分の先祖（ルーツ）を知りたいと思う年頃になったら読んでくれたらよい、そして、逆境を乗り越えたおじいちゃんの遺伝子が、僕（私）にも受け継がれていると感じてくれれば幸い、との思いから書き始めましたが、本を作ることの大変さを初めて知りました。

その達成感で身も心も軽やかに洗濯物を運んでおりましたら、少し高い所から足をふみはずして後向きにこけたのです。山の中の一軒家で大声を出しても届きません。しばらくは動けないで寝ころんだまま、青空を眺めていました。背骨を打ったのと足の血が止まらないのに気づき、タオルでしぼり、地面を這って行き和気さん（ひだまりの家）に電話しました。すぐ来て病院へ連れて行って下さり、足は5針縫ったのですみましたが、第12胸椎圧迫骨折で3ヶ月入院となったのです。ケガをした時、一番に心に浮かんだのが、ひだまりの家（ピンピンコロリの会）であったことを思うと、過疎の地の元気老人の日頃のつながりが如何に大事であるかを思い知らされ、元看護師のテキパキした運びに感謝、感謝でした。「先生や看護師の言われることをよく聞いて、リハビリに励み、又お山に帰って来てね」と和気さんに言われました。

ところが退院を間近にひかえたある日、娘が「お母さん、東京で一緒に暮さない？ テレビも見られず携帯電話もかからない酒だる村での一人暮らしは無理だと思うの」と言ってくれましたが、東京は私の住む所ではないと常々思っていたので、皆と相談の上「ケアハウス幸楽」への入所となったのです。

「ケアハウス幸楽」は、個人の自立性、プライバシーが尊重された、限りなく「住まい」に近いところです。また心身状況に応じ「在宅と同様に在宅保健福祉サービスが受けられ、生活の維持が図れます。私も4月から週2回の運動教室へ通うようになりました。残存機能を維持して、いつまで元気老人でおれるか、個々の努力によって違って来ると思います。

ケアハウス利用資格は

- ・年齢が 60 歳以上の方
- ・日常生活を営む上で身の回りのことが自分で出来る方
- ・身体機能の低下や高齢のため自立して生活することに不安のある方
- ・伝染病・精神病などの病気や痴呆などによる問題行動のない方
- ・所定の利用料を負担出来る方（身元保証人が必要）となっています。

定員は 50 名で、鉄筋コンクリート造 7 階建て居室面積 27.75 m² 全室個室で南向
居住設備はトイレ・洗面・台所（ミニキッチン）・洗濯機置き場・押入れ・ナースコ
ール・エアコン・カーテン・ベランダ

共同設備の浴室は 天然温泉がひかれていて築山から青空を眺め入浴出来ます。

7 階の展望食堂は 東に霊峰石鎚山が紫紺の偉容を見せてくれます。南には皿ヶ嶺
があり、その下方に上林集落があり、夜になると人家の灯が蛇行するように裾を長
く引いて光ります。晴れた日は、海に沈む夕陽を眺めることが出来、この 7 階から
の景色はまさに絶景です。

先日、幼友達が訪ねて来ました。「元気印の静ちゃんが幸楽に入るのは早すぎる」
と様子を見に来ました。そして「想像以上に住みよい所で安心した。寒中床暖房し
て素足で動ける所なん仲間ありませんよ。間取りが南向きで年寄りにとっては身体
にやさしい住居だと感心した」と言って帰りました。

1 年前までは私の人生設計の中に、ここに移り住むということは考えもしなかつ
たことですが、今ではケガの巧妙だと思っています。酒だる村まで 18 分で行ける
場所ですし、遠く離れて住む娘にも安心感を与える良い選択だったのかなとも思い
ます。34 年間お山の生活で、主人があつた世とやらへ単身赴任してから 17 年、酒だ
る村を閉店してからは、猫 3 匹と犬 1 匹との生活でした。サルが群がしいたけを取
りに来たら棒を持って大声でどなり、カラスが「カア」とないてトタン屋根に糞を
すればさびるので「カア～カア」と大声でまねておっ払いました。このような女タ
ーザンのような生活をして来ましたので 50 人の共同生活に最初は戸惑いましたが、
『鍵の友の会』と一緒にボランティア活動をした S・H さんや、18 年前に知ってい
たと声をかけて下さった T・H さんなどの温かい眼差しの中で、比較的早く順応出
来たと思います。その証拠に 5 Kg も体重が増えて、S・H さんに「相撲部屋のおか
みさんみたい」と言って笑われました。

先日の震度 5 の地震で、幸楽という同じ屋根の下に住む私達は運命共同体だから

日頃からさわやかなお付き合いをして、いざという時には手をたずさえて避難出来るようにしたいものだと強く感じました。そして幸楽が字の如く幸せで楽しい所になるようお互い相手を思いやる心で接し、感謝の気持ちで一日一善を心掛けたらよい死に方も出来るのではなかろうかと思えます。

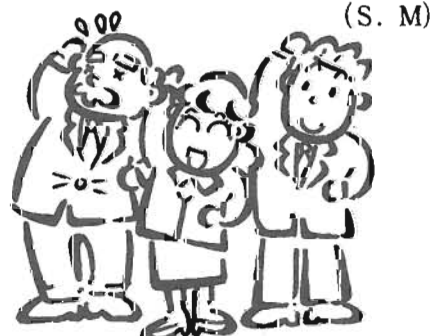
さて、介護保険制度が大きく変わろうとしています。

少子高齢化が進み、人口減少社会の到来で、働き盛りの人が減り財政的にも厳しくなってきました。東温市も例外でなく、介護保険はパンク寸前です。平成18年～20年は愛媛県で一番高い保険料で松山市より高いのです。第5期は新居浜市が施設増で1位になりましたが、今期は又東温市がトップになるだろうと予想されています。因みに平成26年1月末現在で、認定者2,194人で1ヵ月に1人が利用した金額は117,755円だそうです。東温市は高齢者の住みやすい町では、全国でも上位を占め、介護施設も多く利用者も多いのです。介護環境が整っているという事は保険料も高くなってということ事です。

高齢者も恩恵を受ける側だけでなく、元気な人は支える方に回って下さいと地域支援事業に予防事業に今まで以上に力をいれはじめました。私達高齢者も運動教室や、ラジオ体操・ウォーキングなどで筋力の柔軟性を上げ、どんな状況でも悲観的にならず前向きに生きていきたいものです。

我が国では2015年には高齢者が3,300万人になり、団塊の世代が後期高齢者になる2025年頃には、介護職員が現在の1.5倍以上必要になると推計されています。国が医療費も介護費も含め社会保障費を削減しようとする中で「高齢者は如何に生きるべきか」将来を見据えて真剣に考えなければならない時期に来ています。

人は加齢によって老いるのではなく、目標や希望を持たなくなった時、老いるといわれます。「自分の体は自分で守る」努力をして、残業機能を維持し、最後までトイレに行ける人生を目標に生き、最後には『ありがとう』と素直に言える人生を送りたいものです。



(S. M)

助けてもらっています

「老後はひとり暮らしが幸せ」という本を見つけ、私の事かとも思い買って読んだ。

確かに、自分の時間がいっぱいあって、思った時に好きな事が出来る。この状態がずっと続くと思っていたら、大変な事になった。

若い頃から腰痛はあったが、今回は腰から足に痺が走り炊事が出来ない。掃除機はコンパスの様に座って回しながら済ます暮し振り。

食事は外食したり、スーパーでパック物を買ったりしていた時、ポストにチラシが入っていた。「お弁当を配ります。家の片付け掃除草ひきもします」という文字にこれは助け舟だと思い、横河原の事務所に行って相談に乗ってもらった。良い返事を頂き、弁当は明日から、掃除は来週からと心よく引き受けてくれた。

若い頃から料理は好きで、買った物を食べるのは、使っている材料や衛生面でさけていたが、そんな事言っていたら、食べずにいて命にかかわるかとも思い助けてもらう事にした。

「こんにちは」と笑顔で手造りのお弁当を持って来て下さったのは、若い女性だった。まだ暖かさが残っているパックの蓋を開ける。小さな紙の入れ物に、野菜が4種類、魚か肉の調理した物が1種類、色どり良く入れられ薄味でとても食べやすく美味しかった。これなら続けられると思い、夕食だけお願いした。

始めてから2カ月が経つが、毎回種類も味も違い、食材も多いので、自分一人ではこんな料理は出来ないと喜んで食べさせてもらっている。野菜が多い為か量的に適正なのか、体重が3kg減ったのが嬉しい。一人暮らしだと、好きな物だけ多く食べたり、同じ物になったりと楽しいはずの食事が、生きるだけの食事になりがちだったと反省もした。

1週間に一度の掃除は、3部屋に掃除機をかけてもらい、玄関、台所、洗面所の拭き掃除を手早くきれいにしてもらえる。自分の部屋を片付けてもらう事等、考えてもみなかったが、体が自由に動かなくなっでは助けてもらえない。

友達は足が悪いからと、介護保険を使っているが、医師に頼んだりマネージャーがいろいろと面接して支援の級が決まると聞いているので、そこ迄は

困ってないしこれ位で保険を使うのは、心苦しいと思った。

私の姉妹は65歳以上が5人いるが誰も介護保険は使わず自立しているし、毎年集まる同級生も、皆さんお元気で「保険料が何故あんなに高いのかねえ」と不思議だという意見である。

日本の国は、医療保険も、介護保険も互助制度からだど、足りないと言っ
ては一方的に高くなるのは、おかしいと思う。

これ程高齢者が多くなり、どこかが悪くなっていくのは目に見えている。
医療保険だけでは破綻するとなって介護保険が導入されたが、このままでは、
介護保険も破綻する日が来るような気がする。もう少し一人一人が健康で老
後を送る生活をしたいものである。

(Sa・K)

短歌

ラジオから明日の「日の出」の時刻聴き確実に来る思ひよる春

金梅の白満開とメール来て絵を添付する文明の利器

幼な子は身体いっぱい打ち振りてつたえたきこととしてほしきこと

幼子が蒲公英上手く飛ばし初めその時の笑み満面にあり

瀬戸内の小島の霜に集ひ来てやがて記憶の若き声顔

A・N

義父の手紙

1月の中旬、娘が結婚式を挙げました。その二日後、義父から手紙が届きました。私が結婚した当初から、何かにつけて気にかけてくれることの多い義父ですが、今回も色々心配をかけたにもかかわらず、気配りをしてもらいました。

娘の結婚式は両家の家族のみという小さなものになりました。それは、娘と彼の二人で決めたのですが、それを応援してやろうという気持ちになるまでには、少し時間がかかりました。それでも、結婚式当日には、これでよかったという気持ちになっていましたが、やはり、友人の一人もない結婚式は何か、寂しさも心の中には言えませんでした。今まで私が経験したどの結婚式よりも小さな小さなものでした。

しかし、当日を迎え、ドレス姿の娘を見ると、そんなことはどうでもいいことになっていました。細い体に白いドレスが本当にきれいでした。そして何より、彼と娘の真摯な態度や気持ちに触れることができた喜びは何物にも変えられないものでした。バージンロードを歩く夫と娘を見た途端、夫の顔が歪んでいるのがわかりました。横の娘は満面の笑みでしたが、年下の彼だからなのか、娘の性格が少し優しくなってきたようにも思います。義父と義母も娘との写真撮影に嬉しそうな笑顔で臨み、いい式だったよと言ってくれました。なかなか結婚しないことで、色々心配をかけていましたので、安心されたのでしょう。

結婚式後、二週間で彼は転勤が決まっていたので、娘も3月末までは勤務があり、目下別居結婚です。週末、彼は、我が家に帰宅しています。新婚生活も新婚旅行もない二人ですが、二人の会話には和まされることが多いです。幸せを分けてもらっています。4月からは県外に住むことになりますが、今、私の不安は何もありません。

私は、何かと若い二人に心配をしていましたが、義父は夕食後のホテルで、「なかなかいい青年だと思うよ。」と言ってくれました。

式後に届いた義父の手紙には何度も何度も、「美しくて可愛い姿」と書いてあり、こんなにも娘のことを褒めてもらえる幸せを感じました。身近な人だからこそその褒め言葉です。手紙は、結婚式に出席できた喜び、送り迎えをした私の息子への感謝の言葉、私に対する労いの言葉、私の母への言葉が書かれてあり、義父自身も91歳で元気に出席できた喜びも書いてありました。

娘の結婚は、式後に届いた義父の労いの手紙を読んだ時に、最後の感動がありました。私自身は手紙を書くことが本当に苦手です。このもらってうれしい気持ちをどう届けようかと、目下、思案中なのですが・・・。

(M・T)

嬉しい再会

ある人から葉書が届いた。うちが名古屋から引っ越して、引っ越しのその日にうちの息子達と親友になったM君のおとうさんからだった。今は宝塚在住だが、そのM君は関西の大学の大学院修了後、愛媛のマスコミに就職していたのである。そのM君がこの度結婚することになり、3月初めごろ夫婦そろって松山に行くので、会いたい、また連絡するという内容の葉書だった。まだ結婚していないうちの息子と同年のM君の結婚というお知らせもうれしかったが、お父さま自らが書かれたその葉書に感激した。

そして、2月末待望の電話があった。3月2日 12時に宿泊先のホテルに来てほしいとのこと。あいにく、夫はインドネシア出張で2日はいないということで、私一人の参加となった。

当日ちょっと早めにホテルに赴いた。他にもお声をかけている方がいらっしやると聞いていたので、個人的に少し早めに行って、何十年ぶりかの空白の時間を埋めておく必要があるかと思ったのである。

お父さまは、73歳、お母さまは67歳ということだが、私の頭に残っているイメージそのまま、全く変わっていない様子に驚いた。73歳のお父さまは、髪は黒々、これは遺伝だとか。70歳で関西の私立大学を定年退職されたそうで、現在はそれまでの研究の成果をまとめたりするお仕事にお忙しいとか。お母さまも調停委員をずっと続けているということだった。

お父さまの他のお知り合いは、大学時代からの親友で元工学部の教授。彼の奥さまは私の旧知で、彼がフランスパリに留学する時、丁度パリから帰国して間もなかったということで、私が所属している会の活動として生きたパリ生活情報を奥さまにお伝えすることが出来たという縁のある方だったが、この日奥さまは来られていなかった。あと1名は夫の事をご存知だという81歳のもと法文学部の先生だった。名前は存じ上げているが、お会いしたのは初めての方だった。松山の日イ協会の会長をしていらっしやるとのことだった。昼食を取りながら、色々な話しに花が咲いた。

M君一家が愛媛にいたのはイタリア帰国後1987年から5年間だったということ。ということは、我々が愛媛に来たのが平成元年1989年なので、一緒に愛媛にいたのはたった3年だということがわかった。しかし、その3年が我が家にとって本当に中身の濃い、思い出に残る3年だったことを今さらながら振り返ることになった。

1989年10月我が家は名古屋から、全く親戚も知人もいない愛媛に引っ越してきた。夫の名古屋大学から愛媛大学への転勤に伴ってである。引っ越してすぐ、重信町横河原

地区の運動会があり、官舎の子供たちも仮装して出るようになった。訳も分からずうちの息子達は誘われるままに出場した。引っ越してすぐできた友達の存在があったからである。引っ越して全く違和感なく生活ができたのは、二人の親友のお陰である。

1989年うちの下の子は小学1年生、上の子は3年生だった。次の年から2年間夏の2か月うちの夫は北極圏に入って、凍土の中から木の化石を掘って、年代を推定し、気象現象の今後を考えるプロジェクトのメンバーとして参加していたので、長い夏休み父親不在だった。おそらくそれをかわいそうだと思ってくださったのだろう。2年目の夏休み、M君のお父さまが、夏休みの計画を立ててくださった。石鎚山登山、久万の旅行村でのキャンプ、面河の川遊びなど、盛りだくさんな内容で、ご両親とM君とその姉、もう一人の友だちのJ君とその姉（M君の姉とJ君の姉は同級生で友だち）、うちの息子達と私という一行9名で、M君のお父さまと私の運転で2台の車で出かけた。石鎚山登山は私にとってはあとにも先にもこれが1回限りの体験だった。ただ、我が家は名古屋に住んでいる時、長野に夫の友人がいて白馬でペンションをしていたので、毎年行って、色々登山もしていたという経験はある。石鎚はそれに比べたら極めて楽な山だった。鎖も面白い体験だった。頂上に登って、M君のお父さまがイタリア留学7年の間に身につけられたのか、シェスタ（昼寝）の習慣を石鎚の頂上でも実行し、彼が起きるのを待ってみな下山することになったので、頂上に結構長くいたように思う。本当にせこせこしているのが馬鹿らしくなるような、私の周りにはあまりいないタイプの余裕のある人生を過ごしている方という印象が強が残った。

愛媛に来る前は名古屋の町中にある官舎住まいだった。うちの息子達は愛媛に来て、官舎の前が重信川の河原で、自然に恵まれたところだったので、毎日が本当に楽しかったに違いない。毎日上の息子はM君、J君と遊んでいた。それにうちの下の息子がくっついて遊ぶという構図である。『焼あとの元気くん』という戦後の動乱期の子どもたちの生活を描いたほのぼのした漫画があるが、それを地で行くような生活だった。その漫画は三馬鹿トリオ（うちの子以外は馬鹿ではないが）+ちび（まるで下の息子）の毎日の生活を描いたものである。うちが官舎から1年で引っ越した後もその生活が続いた。

ある時、河原で探検ごっこをしていたら、M君のお父さまがどこからともなくベニヤ板を持ってきてくださった。子どもたちは早速それで、河原に基地を作って自分たちだけの秘密の場所を作って楽しんでた。手を直接出すわけではなく、それとなく材料を置いておく。素晴らしい教育だと思った。教育は環境作りが大切だということを夫とも

話したことを思い出す。

その話をこの集まりでしたら、お父さまは、自分は木材屋の息子だったので、木切れが身近にあった。それを思い出して、ちょっと近くの木材工場からこっそりもらってきたんだということだった。もう時効は成立していることだろう。

それを聞いていた、お父さまの大学時代からのお友達が、自分が知らない彼の一面を聞いたと興味深げに言われたのが印象的だった。普段はどんな方なのだろうかとこちらも逆に興味を持った。

23日に結婚するという二人も顔を出してくれたので、お祝いを言うことが出来た。M君は4月からは松山勤務になるとのこと。今度おじちゃんがいるときに彼女と遊びに来てくれると言ってくれた。今回夫が出られないのが残念でたまらなかったのですが、本当に嬉しい限りだった。小さい時の写真、息子が帰ってきたときにうちに来て泊まってくれたとき撮った写真を彼女に見せた。彼女の楽しそうな顔が、今後の彼らの新婚生活を想像させてくれる。きっと仲のいい幸せな家庭を築くことだろう。勝手に自称保護者の一人として応援していきたい。

お父さま、お母さまもこれを機会にまた松山にきてくださるとのこと。

今後また、彼らとの興味深い繋がりが始まるようで、今回の再会は、今後に繋がる本当にうれしい出来事となった。

(T・H)



京都明治期小学校の創設

京都に参りまして1年余、多くを見聞きすることが出来ましたが、取分け感銘深かった事をお話させていただきます

明治改元、天皇、東京遷都、それに伴い多大の人、諸々の分野職域の主たる人物が、すべてを挙げて京を離れ去りました。幕末の容赦なき戦渦に、京都は疲弊し切り、民は落胆のどん底にありました。そんな中、京都の人々は何を為したか。子ども達の教育でした。

学制の発布に先がけること数年、京都市中を67の番組（今で言う校区）に区割し、明治2年から翌3年までに、すべての小学校を開設しました。学校と言ってもそこは役所の諸業務、税・防犯・消防とあらゆる市民生活に必要な役目と機能を果す所でした。つまりいつも近隣の大人の目が注がれ、見守られて未来の子ども達は大切に育てられていったのです。古い写真が残されていました。運動会、プール（？）風景、学芸会など。知恩院の階段を借り整列した卒業写真、皆な着物でした。国からの補助も支援もない中、資金として^{かまど}竈税がもうけられました。つまり生計をもつ一世帯、子どものいない家も例外なく納税が課せられました。鳩居堂店主はその私財を出し、日本で最初の小学校が創立されました。その石碑が御池通脇にあります。

「すべての事は京都から始まっている」と言った人がいます。やはり長く都があった地なのです。『京都市学校歴史博物館』に、創設に関わる資料や、残された教科書・教材・教具など、一堂に集め保管されています。又各小学校の卒業生が大成し、美術工芸品書画等々を寄贈したものが、此処に集められ眩しいばかりです。

初めてのオルガンが入ったその夜、音楽教師はそこに添寝をしたとも。就中私が心底感銘を受けたのは、障害児童を放つてはおかなかったことです。京都の地の一人の人間として共に生きてゆこうとする底力・希望・理想が、百数十年を隔てひしと伝わってきます。かの水平社も京都にありました。思えば京都の長い歴史の中に、施薬慈悲の僧尼や皇族の貴い御名が浮んできます。

又、学令に達しなくても、その意欲のある者は教育を受けさせたとも。さて数多くの師範が必要となります。市中には秀でた人材が多くいたことでしょう。社寺研究機関はどの町内にも。一枚の生徒の作品に驚きました。梅を描いていました。高度な枝が伝えられていたのでしょうか。かの福沢諭吉が、当時の学校を訪ね、「自分の目ざしたものが此所にある」と言ったそうです。

今日本の各地、公園に溢れて遊ぶ子ども達の姿は見かけなくなりました。京都では、あちこちに元気に駆け廻る子どもの声がにぎやかに聞こえてきます。何が違うのでしょうか。

(M・D)

雑感

あの日から3年。今年も、3月11日がやって来ました。

あの日、私は延岡城跡の自生の藪椿群を見に行った帰り、車のラジオで宮城県沖を震源とする地震があったというニュースを聞きました。数日前にも仙台で大きな地震がありました。その余震だろうと思いました。しかし、次々に報じられる被害の様子は、余震の範囲を超えていました。東京にいる娘から、“無事だから安心して”というメールが届きました。東京の娘まで無事を知らせるメールを出すという状況に、安心するより、事の重大さを実感し、狼狽しました。

帰宅後、テレビの画面に映し出された映像は現実とは思えない凄惨なものでした。家が、車が、まるで木屑のように流されていきました。津波です。日本中の太平洋沿岸に津波警報、注意報が出され、宮崎県でさえ被害が有りました。

最初、マグニチュード7程度とされた震度は次々に引き上げられ、マグニチュード9にまでなりました。夜になると暗闇の中、あちらからもこちらからも火の手が上がりました。津波火災です。地獄絵図でした。それだけでなく寒い、東北の3月。地震で、津波で、家を、家族を失った人たちが凍えるような寒い夜を不安の中で過ごされたことを思うと、今も胸が詰まります。

でも、それだけでは終わらなかったのです。

翌日には福島第一原発で次々に不具合が起こり、メルトダウンし水素爆発しました。そして大量の放射能が放出されてしまいました。国際原子力事象評価尺度で最悪のレベル7でした。200km以上も離れた東京の渋谷でも、空間線量は基準の2倍に達したということです。

なす術の無いまま、怪物の暴走は続きました。

家屋も公共施設も、道路も、橋脚も、鉄道も、空港も、港も、勿論、水道も、ガスも、電気も壊滅状態の中、陸の孤島と化した所も多く、救助の手はなかなか届きませんでした。水が出ない為、消火も儘ならず、なすすべもなく悔しい想いでただ見ているだけだったと述懐していた消防団員の方もいました。そんな中でも、ご近所の繋がりや強さで困難を凌いでおられる様子は輝いていました。

岩手県沖から茨城県沖にまで及ぶ広い範囲を震源とする超巨大地震とそれに伴う津波に、政府も専門家も揃って“想定外”という言葉を連発しました。

被曝に関しては“直ちに影響が出るものではない”と言い続けました。一部の専門家は、“被曝の影響は交通事故や喫煙のリスクより小さい。正しく怖がるのが大切”と言い

放って憚りませんでした。

あれからもう3年も経ちました。

確かに道路や交通手段はある程度整備され、瓦礫も片付き、再開された工場や店舗も増えてきました。しかし、更地のまま手付かずの所も多く、新しい街創りが始まっているとは言えません。未だに不自由な仮設住宅暮らしの方達が大勢いらっしゃいます。

事故を起こした原発は問題が山積みで、廃炉への見通しすらたっていません。増え続ける汚染水はトラブル続きです。作業員の累積被曝線量は上がるばかりで、作業を続けられない人たちも多い中、補充も容易いことではありません。放射線量が未だに高いため、避難を余儀なくされている人達が多くいます。放射線の影響を考えて自主避難を決めた人は、周りへの気兼ねにも、苦しんでいます。自主避難という言葉自体が不条理だと内橋克人さんは怒ります。好き好んで避難している人は居ない、と。

福島県では震災関連死が直接死を超えました。その中には自ら命を絶った人も多くいます。

福島県以外の自治体でも人口流出が止まりません。3年間はあまりにも長い時間です。帰りたい、帰れない、帰らない、悔しさの中で泣くことすら出来ず、辛い思いをひたすら胸に仕舞い込んでいる人たちにとって、3年も経ったのに、との想いは募るばかりです。あの日を経験した方、一人一人に、それぞれの辛さ、悔しさ、悲しさが有ります。一人一人がその想いを乗り越え、一步を踏み出す力に、協力しなければ、と思います。

復興予算は他の所では流用が指摘されるどころも少なくなかったにも拘らず、被災地では、何故か使えずに膨大な予算が残ったままになっていると言います。

大きな原因に、被災自治体の人手不足と、2020年に開催が決まった東京オリンピックによる資材や人件費の高騰が有ります。それだけでなく小さな自治体の職員自身が被災し、他県から応援人員が出向していますが、それにも限界が有ります。今までの何倍もの予算を組み立てるのは並大抵のことでは無いでしょう。そこへ、オリンピックの為の巨大な施設づくり、今まで放置していた老朽インフラの補修計画、などが追い打ちをかけているのです。

何故、自らに何の過失も無いのに、不便を強いられている人達の事を最優先にできないのでしょうか。安倍首相はオリンピック誘致の演説で、福島第一原発の汚染水を“アンダーコントロール”と宣言しました。冗談ではないと思いました。こんな時期に、と憤りました。日本にオリンピックを誘致するのであれば、東北6県による共同開催が出来

る状態になってからにして欲しいと思いました。しかし東京オリンピックは決まりました。世界中の人達が2020年までに完全に東北地方が甦りますように、との応援メッセージを下さったのだと思いました。

ならば、先ず、被災地を見事に復興させた後、出来る範囲のコンパクトな東京オリンピックを世界の人達に見て欲しいと思います。私達の国は弱い立場になってしまった人達を、決して見捨てない国だということを世界に示してほしいと思います。それが、私たち日本人の日本人としての誇りだと思います。

事故を起こさなくても、最終処理も出来ず、核兵器に転用可能な高レベル核廃棄物を産み出し続ける原発を、被爆国日本が他国に輸出するような破廉恥なことは慎んでほしいと思いますし、国内での再稼働も諦めて欲しいと思います。

3年前のあの日以来、政府や権威ある人達、専門家の言葉が信頼を失いました。福島第一原発の事故後、様々な団体が事故の調査、検証を行いました。プラント建設の不備、操作ミス、当時の政権の不手際など様々に報じられました。東海・南海・日向灘の連動型地震、富士山や桜島の噴火が取沙汰され、想定被害の大きさが次々に引き上げられる中、報道各局は、「今後は“想定外”という言葉は使ってはいけない」と口をそろえます。想定できると思っていること自体が間違っているのではないのでしょうか。想定できないことが起こり得ると自覚したうえで、事故を起こした時、収束すらできない原発は稼働させるべきではないのです。安全審査に、時間、人手、費用を掛けるより、その分を核廃棄物の最終処分の為の研究に掛けて欲しいと思います。現在、既に溢れるほどの核廃棄物が最終処分を待っています。信じられないことですが、川内原発はこの夏にも再稼働の見通しです。

そして、今、ますます信頼を失う出来事が次々に起きています。

ドキュメンタリー番組まで作られた全聾の作曲家が軽度の難聴だったと知った時は、曲そのものより、“物語”に感動してしまった自分を反省しました。それにしても、番組制作にかかわった多くのスタッフをだまし続けた彼の演技力、プロデュース能力は凄いと変な所で感心すらしました。しかし、その“物語”作りに、辛い思いを抱えながらも頑張っている子供たちを利用したことは許しがたいことです。

製薬会社と医療機関に係る医薬品効能データの改ざん。過剰検査による医療被曝。人間の命に係る仕事に携わっているという原点を忘れないで欲しいと思います。

iPS細胞、ES細胞、などのいわゆる万能細胞は再生医療の将来に明るい未来を産み出すものとして脚光を浴びていますが、私はあまり興味を持ってませんでした。永遠の命

も夢ではないかもしれない、という言葉聞いた時、現在、夜の闇を失ってしまったように、将来、死なない時代が来るかもしれない、と考えると、生きていることの大切さが益々軽視される時が来るのかもしれない、と、何だか恐ろしい気持ちになったものでした。失ったものを再生するよりも、失って不自由になっても、不幸だと思わない社会の構築、限りある命だからこそ今を大切に生きることが、人間としての成熟なのではないか、とも思いました。

そんな中、若い女性科学者が STAP 細胞という新しい万能細胞を創り出すことに成功した、というニュースが世の中を駆け巡り、連日、まるでアイドルタレントのような扱いで報道されました。しかし、程無くその成果に疑いの目が向けられ、所属する理研の理事たちによる会見が行われました。画像の使い回し、文章の引用、画像の貼り付け加工などの不適切を認め、論文の取り下げに言及しました。不適切で有れば、取り下げるのは仕方のないことでしょう。しかし、理事たちの口から何度も“未熟な科学者”による過失、という言葉が発せられました。未熟な科学者をユニットリーダーに任命したのはどなたなのですか。共著者が 14 名もいて誰も気付かなかったのですか。自分たちが何のために理事として存在しているのか、考えて欲しいと思いました。

国の最高責任者である安倍首相のやり方も目に余ります。“憲法解釈の変更”によって集团的自衛権の行使を可能にすることは許されることではありません。集团的自衛権の行使にこだわるよりも、近隣諸国との関係改善に努力すべきです。世界中、争い事が多すぎる今だからこそ、戦争の出来る国になってはいけないのです。

我が家が、綾に居を移して 3 年余。寒くて雨の多い冬でした。今も、汗ばむ陽気と真冬の寒さを繰り返していますが、宇和島、高知に続いて、19 日には宮崎でも桜の開花宣言が出されました。21 日、綾の桜は満開です。綾溪谷は、山桜、イワツツジ、ヤブツバキが満開を迎え、ウグイスの歌声とともに、私達を楽しませてくれます。ウグイスの歌は日毎に上達し、山から里に近づいて来ています。

近所のコブシの大木は枝いっぱい真っ白な花を付けて誇らしげでしたが終わってしまい、今は薄紅から深紅まで様々な色の桃の花が街並みを彩っています。

土手は菜の花の黄、ハマダイコンの薄紫がかかった白の花々が風に揺れています。裏の木立の木々の芽吹きが始まり、朝早くから、夕方遅くまで、様々な鳥が歌っています。特に多いのがヒヨドリです。忙しく枝から枝に飛び移っていますが、たまに足を滑らせて慌てている様子に思わず吹き出してしまう。ハゼの新芽が好みの様です。シロハラは熱心に地面を突いています。暦通り、虫たちが動き出しているのでしょう。カラス

は小枝をくわえて大急ぎで飛び去っていきます。巣作りの季節なのでしょう。そのせいか、自分より少し大きい猛禽類に猛然と攻撃を仕掛けている姿をよく見かけます。2月には群れでやって来ていたメジロ、エナガ、カワラヒワ、シジュウカラはこのところとご無沙汰です。満開のヒサカキの葉陰に隠れているのかもしれませんが。スズメ、モズは数羽で仲良く語り合う、微笑ましい姿を垣根や枝先で度々見かけます。シメ、ジョウビタキは、木の実を啄ばみながら、単独行動を楽しんでいます。田に水が入り、益々忙しそうなツバメが電線で羽を休めているのを見ると“お疲れ様”と声を掛けたくくなります。

2月のシロチョウに始まってキチョウ、アカタテハ、キタテハ、ベニシジミと、蝶の種類も増え、3月後半には小型のアゲハチョウも姿を見せる様になりました。

庭の植木もずいぶん大きくなり、グミやビワは私の背丈を超えました。ビワは可憐な花の後、沢山の実を付けています。グミも今まさに花盛りです。真っ赤な実がなる日を楽しみにしています。藍のこぼれ種が鉢いっぱい発芽し、本葉がのぞき始めました。

庭の片隅で、宝探しのように目を凝らして見つけた落の藁も、庭の至る所に顔を出す土筆の袴取りもそろそろ終わりです。代わって、冬に花を楽しんだツワブキが柔らかい茎を沢山伸ばしています。近所の方に教わって、ツワブキだけの水炊きを作りました。ゼリーのような食感とほのかな春の苦みがポン酢と相まって癖になる美味しさです。是非お試し下さい。

こんな穏やかな日々、先日の伊予灘を震源とする最大震度5強の地震には吃驚しました。愛媛県、広島県が特に大きな揺れだったようですが、皆様には影響はありませんでしたか。お見舞い申し上げます。

私は気付かずに朝を迎えました。先ず大五郎が異変を察知して吠え、その声で夫が目覚めたそうです。ラジオが緊急地震速報でアタフタしていたと言います。近所で気付かなかったのは私を含めて極少数でした。その少数派は、前日の夜、公民館での体幹トレーニングに参加していました。体操後、震度3にも気付かず熟睡していたのです。吃驚!!です。

早速、常備品の点検をしました。増税前に、水を買って足しておこうと思います。

(K.O.)

んでいたが、副作用に伴う接種差し控えて大幅減少した。13年度は105人程度、接種率17・5%の見通し」と報告した。

横河原駅改修で
周辺の整備検討

△東温市▽7日

定例)2013年度一般会計補正予算など9議案を原案可決し、報告1件を受理。14年度一般会計当初予算など19議案、請願6件を委員会に付託した。

議案質疑で山内数延氏(無所属)は、補正予算案に盛り込まれた予防接種等委託料2530万円の減額に関連し子宮頸(けい)がんワクチン接種者数をただした。理事者は「当初600人程度を見込

酒井克雄氏(同)は生活バス路線の運行見直し時期を質問した。理事者は「10月1日を目標にダイヤ改正、新しい公共交通運行への切り替えをする」とした。丸山稔氏(公明)は伊予鉄道横河原駅周辺整備の内容を聞いた。

理事者は「伊予鉄の15年度駅舎改修に合わせ、駐車場へのアプローチ舗装とアクセス道路、駅舎周辺のイベントスペースの整備を考えている」とし、14年度に地元住民と具体的な計画を練ると述べた。

消費税率引き上げに合わせ市有施設の使用料などを自動改定する関係条例改正案について、渡部伸二氏(無所属)は「増税に伴う引き上げを議会審議を経ず無条件で認めることになる」と反対した。

市議会

原案通り受け入れ

具体的計画
喫緊の課題

△東温市▽11日

定例)山内孝二、丹生谷美雄、渡部伸二、相原真知子(以上無所属)森真一(共産)近藤千枝美(公明)の6氏が一般質問した。山内、相原両氏は、

平成の大合併10年について市の検証を問うた。高須賀功市長は「策中と選択による一定の成果はあるが、地域課題が顕在化している」とし、県と市町が連携して行う合併の効果と課題の検証を活用し、今後のまちづくりにかしたいとした。

近藤氏は、障害者が障害の特性や必要な支援を書き込み、災害時などに緊急時に周囲に助けを求める「ヘルプカード」作成を提案。理事者は県作成の手帳「あしあとノート」などを市役所に設置しているがヘルプカードなら常に携帯でき適切な支援が受けられると評価。県に働き掛け、検討したいと表明した。

渡部氏は、伊方原発事故時の西予、内子両市町からの避難者受け入れ態勢整備状況を問う。最悪の事態を想定すべきたと提言。理事者は、両市町と個別協議を経た上で受け取った住民避難行動計画だと説明し「市地域防災計画の改定に合わせ、

ツインドーム改修後
フットサル

禁止の方針

△東温市▽12日

定例)西山徹、松末博年、大西勉の無所属3氏が一般質問した。

西山氏は、国体に向けたツインドーム改修計画に関し、改修後の施設利用方針を質問。理事者は「激しいスポーツに対応できる施設への改修は計画していない」とし、施設の破損リスクが高いフット

大西氏は、中山圃地域振興策として淡水魚「ホンモロコ」養殖を提案。高須賀功市長は、養殖池整備には農地転用や水利権の課題があるほか「県内で養殖例がなく、市には技術や卵の確保などの知識がない」とし、希望者があれば県機関を紹介し、事業助成を検討したいとした。

松末氏は、2011年度から続く地域雇用創出推進事業の実績をたじた。大西裕副市長は、2月の合同就職説明会では高齢者や女性を採用する企業の募集に努め、134件の面談があり、事業者から採用見込み5人、検討中55人との回答があったと報告。2月末までに就職支援事業を終え、3年間の目標101人に対し1月末時点で88人が就職したと

西山氏は、国体に向けたツインドーム改修計画に関し、改修後の施設利用方針を質問。理事者は「激しいスポーツに対応できる施設への改修は計画していない」とし、施設の破損リスクが高いフットサル競技の利用を禁止すると答えた。現在施設を利用しているフットサル団体に4月から周知するという。

一層の雇用拡大に

編集後記

日本列島のあちこちから桜の便りが聞こえてきます。

東温市の木は桜。

近々、重信川の堤防添いも桜を愛でる人々で賑わうことでしょう。

見奈良の黄色一色の菜の花畑も見事です。

宮崎のOさんから、たつぷりと春の便りが寄せられました。

近くによつて来る、鳥や蝶たち木々の芽吹き、

鳥たちの囀り、新芽の香りまで漂ってきそうで何だかうきうきします。

春の訪れは、宮崎の方が少し早い感じですが。

我が家のウマノスズクサは新芽が出はじめ(3/25)2 cm程に伸びています。

ジャコウアゲハの蛹はまだ固くときの来るのを待っています。

今回 85 号には読み応えのある原稿がたくさん届きました。

70 歳台の高齢者の会員の声、

これも現実の事として受け止め、考えていかなければ・・・

それにしても、昨今のニュース、気の毒がる事ばかり。

世界中が一触即発の感じ。

4 月、希望に胸を膨らませ巣立っていく若者たちの

夢を壊さないでほしい。

(S・K)



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年
振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026
問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956
E-mail: kt-hayashi@nifty.com